

S7-2. 昭和 60 年以降の認識 (SA・必須)

- 1.含まれており参考にしていた
- 2.含まれていたが参考にしていなかった
- 3.含まれてはいなかった
- 4.分からない、知らない
- 5.その他 (具体的に:)

問8. 各年代で臨床現場において治療行為を行っていた方にお聞きします (問1で自動的にチェック)

昭和 40～50 年代当時、治療方針を決定する際何を参考にしていましたか。
参考にしてきたもの全てを回答してください。 (MA・必須)

1. 教科書の記述
2. 診療ガイドライン
3. 治療のマニュアル本 (『今日の治療指針』等 具体的に (診療科別のものでも可です):)
4. 学術論文等の記述
5. 学会発表
6. 先輩、同僚等身近な経験豊富な医師の指導、助言
7. 専門分野において著名な医師の意見
8. MR (当時の製薬メーカーのプロパー) からの情報提供
9. その他 (具体的に:)

問9. 各年代で臨床現場において治療行為を行っていた方にお聞きします (問1で自動的にチェック)

昭和 40～50 年代当時、血液製剤の適用等に関し製薬企業からの情報提供はありましたか。
(SA・必須)

1. 情報提供はなかった
2. 情報提供はあった

S9. 上記設問で「2.情報提供はあった」と回答した方にお伺いします。

どのような形で情報提供がありましたか? (MA・必須)

1. 口頭での情報提供があった
2. 学術論文を持参しての情報提供があった
3. 企業が作成した資料を持参しての情報提供があった
4. その他 (具体的に:)

問10. 全員の方にお聞きします

「輸血用血液製剤は日本赤十字社がすぐには持ってきてくれないため、常備されている血液分画製剤を利用する」という意見について、以下の中から先生のお考えに近いものを 1 つお答えください。 (SA・必須)

1. 当時そのような考えを持っていた
2. そのような考えは持ってはいなかったが、周囲の医師がこのような発言をしていたのを聞いたことがある
3. そのような考えは持ってはいなかったし、周囲でも聞いたことがない
4. わからない
5. その他 (具体的に:)

問11. 全員の方にお聞きします

東京地方裁判所昭和 50(1975)年 2 月 13 日判決「弛緩出血ショック止血措置輸血措置懈怠」※について伺います。

S11-1. 上記裁判判決を知っていますか (SA・必須)

1. 内容を知っている
2. 聞いたことはあるが内容までは詳しく知らない
3. 全く知らない

S11-1-1. (上記 S11-1 で、1, 2 と回答した方のみお答えください)

上記裁判判決は、自らの治療方針に影響しましたか

1. 大きく影響した
2. 多少は影響した
3. 影響はしなかった
4. 分からない
5. その他 (具体的に：)

※東京地方裁判所昭和 50 (1975)年 2 月 13 日判決「弛緩出血ショック止血措置輸血措置懈怠」

医療現場のフィブリノゲン製剤の使用に関し、「弛緩出血ショック止血措置輸血措置懈怠」の裁判により医師側が敗訴したという事実がある。この裁判の概要を以下に示す。

分娩後、子宮の収縮不全を原因とする弛緩出血によりショック状態に陥った産婦に対し、医師としては迅速な止血措置を行うと共に、出血量、血圧数及び一般状態を確実に観察把握の上、輸血適応の状態に達したときには、時期を失することなく速やかに輸血措置を講ずべきであり、これを怠った過失があるものとされた昭和 42 年の事例。

この裁判の判決要旨にて、以下のように述べられている。

「分娩時の出血の中でも特に重大視されている弛緩出血、しかも子宮の収縮不全がその原因として疑われる状態であったのであるから、医師としては、これに対して迅速な止血措置を行うと共に、出血量、血圧数及び一般状態を確実に観察把握の上、輸血適応の状態に達したときには、時期を失することなく速やかに輸血措置を講ずべきであり、これに伴い、血液の性状につき凝固性が疑われるとき、又は多量の出血によって生ずる出血傾向を防止する必要があるときには、線溶阻止剤や線維素原の投与をなし、輸血にしても新鮮血の大量輸血を施すのが当を得た注意義務といえることができるべきである。」

また、この判決では、輸血による血清肝炎の危険性についても以下のように述べられている。

「輸血には血清肝炎の問題があつて、昭和 40 年、同 41 年はその発生のピーク時であり、また昭和 42 年当時血液の供給体制も不備な状況にあつたことから、血液に代わるものでまず体液のバランスを維持することが医師の通念であつたが、前示のような理由から、産科医としては輸血に踏切るタイミングも念頭に置くべきであるとされ、また産科出血に際して行われる輸血は生命に関係し、緊急を要する場合が多いので、さしあたっての問題はその必要量を確保することであると唱えられていた。」

2) 医師に対するアンケート調査 集計データ

i) 単純集計

F1 年齢

| | 件数 | 割合 N=103 |
|-------|-----|----------|
| 50代前半 | 64 | 62.1% |
| 50代後半 | 22 | 21.4% |
| 60代前半 | 11 | 10.7% |
| 60代後半 | 4 | 3.9% |
| 70代前半 | 1 | 1.0% |
| 70代後半 | 1 | 1.0% |
| 全 体 | 103 | 100.0% |

F2 性別

| | 件数 | 割合 N=103 |
|-----|-----|----------|
| 男性 | 93 | 90.3% |
| 女性 | 10 | 9.7% |
| 全 体 | 103 | 100.0% |

F3 専門分野

| | 件数 | 割合 N=103 |
|-----------|-----|----------|
| 血液内科 | 23 | 22.3% |
| 消化器外科 | 23 | 22.3% |
| 産科 | 20 | 19.4% |
| 小児科 | 20 | 19.4% |
| 胸部外科 | 10 | 9.7% |
| その他 (内科系) | 4 | 3.9% |
| 一般内科 | (1) | (0.1) |
| 産婦人科 | (1) | (0.1) |
| 内科 | (1) | (0.1) |
| 病理診断科 | (1) | (0.1) |
| その他 (外科系) | 2 | 2.9% |
| 呼吸器外科 | (1) | (0.1) |
| 心臓血管外科 | (1) | (0.1) |
| 全 体 | 103 | 100.0% |

F4 所属病医院の種別

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|-------|-----|----------|
| 大学病院 | 16 | 15.5% |
| 国立病院 | 3 | 2.9% |
| 公立病院 | 26 | 25.2% |
| 私立病院 | 36 | 35.0% |
| 私立診療所 | 22 | 21.4% |
| 全 体 | 103 | 100.0% |

F5 所属する病医院の病床数

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|--------|-----|----------|
| なし | 13 | 12.6% |
| 19床以下 | 10 | 9.7% |
| 20床以上 | 8 | 7.8% |
| 100床以上 | 72 | 69.9% |
| 全体 | 103 | 100.0% |

問 1. 昭和 40 年代～昭和 60 年代、臨床現場において治療行為を行っていましたか？

S1-1. 昭和 40 年代

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|-----------------------|-----|----------|
| 臨床現場において治療行為を行っていた | 14 | 13.6% |
| 臨床現場において治療行為を行っていなかった | 89 | 86.4% |
| 全体 | 103 | 100.0% |

S1-2. 昭和 50 年代

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|-----------------------|-----|----------|
| 臨床現場において治療行為を行っていた | 73 | 70.9% |
| 臨床現場において治療行為を行っていなかった | 30 | 29.1% |
| 全体 | 103 | 100.0% |

S1-3. 昭和 60 年代

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|-----------------------|-----|----------|
| 臨床現場において治療行為を行っていた | 95 | 92.2% |
| 臨床現場において治療行為を行っていなかった | 8 | 7.8% |
| 全体 | 103 | 100.0% |

問 2. これまでに下記製剤を治療に使用したことがありますか。おおまかな症例件数とともにお答えください。

① フィブリノゲン製剤（糊としての使用は除く）

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|-------------|-----|----------|
| 使用経験 10 例以上 | 26 | 25.2% |
| 使用経験 1～9 例 | 25 | 24.3% |
| 使用経験はない | 52 | 50.5% |
| 全体 | 103 | 100.0% |

② フィブリン糊

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|-------------|-----|----------|
| 使用経験 10 例以上 | 36 | 35.0% |
| 使用経験 1～9 例 | 10 | 9.7% |
| 使用経験はない | 57 | 55.3% |
| 全体 | 103 | 100.0% |

③ 第Ⅸ因子複合体製剤

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|-------------|-----|----------|
| 使用経験 10 例以上 | 5 | 4.9% |
| 使用経験 1～9 例 | 40 | 38.8% |
| 使用経験はない | 58 | 56.3% |

| | | |
|-----|-----|--------|
| 全 体 | 103 | 100.0% |
|-----|-----|--------|

問3. 問2でそれぞれの製剤について使用経験があると答えた方にお聞きします。

S3-2. 治療に使用した時点での各製剤の治療効果に関する評価をお聞かせください。

① フィブリノゲン製剤

| | 回答数 | 割合 N=51 |
|---------------------------|-----|---------|
| 治療効果は高かった | 19 | 37.3% |
| 治療効果はあったがより治療効果の高い製剤が存在した | 0 | 0.0% |
| 治療効果は低かった | 5 | 9.8% |
| 治療効果の評価は困難である | 20 | 39.2% |
| 覚えていない | 7 | 13.7% |
| 全 体 | 51 | 100.0% |

② フィブリン糊

| | 回答数 | 割合 N=46 |
|---------------------------|-----|---------|
| 治療効果は高かった | 32 | 69.6% |
| 治療効果はあったがより治療効果の高い製剤が存在した | 1 | 2.2% |
| 治療効果は低かった | 2 | 4.3% |
| 治療効果の評価は困難である | 11 | 23.9% |
| 覚えていない | 0 | 0.0% |
| 全 体 | 46 | 100.0% |

③ 第IX因子複合体製剤

| | 回答数 | 割合 N=45 |
|---------------------------|-----|---------|
| 治療効果は高かった | 24 | 53.3% |
| 治療効果はあったがより治療効果の高い製剤が存在した | 0 | 0.0% |
| 治療効果は低かった | 4 | 8.9% |
| 治療効果の評価は困難である | 11 | 24.4% |
| 覚えていない | 6 | 13.3% |
| 全 体 | 45 | 100.0% |

S3-3. それぞれの製剤を予防的に使用したことはありますか？

① フィブリノゲン製剤

| | 回答数 | 割合 N=88 |
|-------|-----|---------|
| ある | 7 | 8.0% |
| ない | 69 | 78.4% |
| 記憶にない | 12 | 13.6% |
| 全 体 | 88 | 100.0% |

② フィブリン糊

| | 回答数 | 割合 N=88 |
|-------|-----|---------|
| ある | 17 | 19.3% |
| ない | 61 | 69.3% |
| 記憶にない | 10 | 11.4% |
| 全 体 | 88 | 100.0% |

③ 第IX因子複合体製剤

| | 回答数 | 割合 N=88 |
|----|-----|---------|
| ある | 10 | 11.4% |
| ない | 62 | 70.5% |

| | | |
|-------|----|--------|
| 記憶にない | 16 | 18.2% |
| 全体 | 88 | 100.0% |

S3-4. フィブリノゲン製剤を主に使っていた年代はいつですか？

一番多く使っていた年代に◎、使っていた年代に○をつけてください。

《◎のみ》

| | 回答数 | 割合 N=51 |
|----------|-----|---------|
| 昭和 40 年代 | 6 | 11.8% |
| 昭和 50 年代 | 19 | 37.3% |
| 昭和 60 年代 | 26 | 51.0% |
| 全体 | 51 | 100.0% |

《◎○全て》

| | 回答数 | 割合 N=51 |
|----------|-----|---------|
| 昭和 40 年代 | 7 | 13.7% |
| 昭和 50 年代 | 26 | 51.0% |
| 昭和 60 年代 | 35 | 68.6% |
| 全体 | 51 | 100.0% |

S3-4-1. 上記 S3-4 で◎と回答した年代に所属していた病医院の種別をお知らせください。

| | 回答数 | 割合 N=51 |
|-------|-----|---------|
| 大学病院 | 34 | 66.7% |
| 国立病院 | 2 | 3.9% |
| 公立病院 | 9 | 17.6% |
| 私立病院 | 6 | 11.8% |
| 私立診療所 | 0 | 0.0% |
| 全体 | 51 | 100.0% |

S3-4-2. 上記 S3-4 で◎と回答した年代に所属していた病医院の病床数をお知らせください。

| | 回答数 | 割合 N=51 |
|---------|-----|---------|
| なし | 0 | 0.0% |
| 19 床以下 | 0 | 0.0% |
| 20 床以上 | 1 | 2.0% |
| 100 床以上 | 50 | 98.0% |
| 全体 | 51 | 100.0% |

問 4. 各年代で臨床現場において治療行為を行っていた方で（問 1 で自動的にチェック）、かつ、問 2 において、それぞれの製剤について使用経験があると答えた方にお聞きします。

当時、上記製剤の使用は非 A 非 B を始めとするウイルス性肝炎のリスクが存在したわけですが、現在から当時は振り返ってみて、何らかの代替療法によって肝炎罹患リスクを低減する可能性があったとお考えですか。製剤毎に当時のご認識をお答えください。

S4-1. 昭和 60 年以前の認識

① フィブリノゲン製剤

| | 回答数 | 割合 N=37 |
|----------------------------|-----|---------|
| 当時の医療事情では代替する治療法の選択は不可能だった | 27 | 73.0% |
| 当時の医療事情でも何らかの改善の余地はあった | 9 | 24.3% |
| その他 | 1 | 2.7% |
| 全体 | 37 | 100.0% |

② フィブリン糊

| | 回答数 | 割合 N=34 |
|----------------------------|-----|---------|
| 当時の医療事情では代替する治療法の選択は不可能だった | 26 | 76.5% |
| 当時の医療事情でも何らかの改善の余地はあった | 6 | 17.6% |
| その他 | 2 | 5.9% |
| 全体 | 34 | 100.0% |

③ 第IX因子複合体製剤

| | 回答数 | 割合 N=32 |
|----------------------------|-----|---------|
| 当時の医療事情では代替する治療法の選択は不可能だった | 25 | 78.1% |
| 当時の医療事情でも何らかの改善の余地はあった | 3 | 9.4% |
| その他 | 4 | 12.5% |
| 全体 | 32 | 100.0% |

S4-2. 昭和 60 年以降の認識

① フィブリノゲン製剤

| | 回答数 | 割合 N=50 |
|----------------------------|-----|---------|
| 当時の医療事情では代替する治療法の選択は不可能だった | 19 | 38.0% |
| 当時の医療事情でも何らかの改善の余地はあった | 28 | 56.0% |
| その他 | 3 | 6.0% |
| 全体 | 50 | 100.0% |

② フィブリン糊

| | 回答数 | 割合 N=45 |
|----------------------------|-----|---------|
| 当時の医療事情では代替する治療法の選択は不可能だった | 24 | 53.3% |
| 当時の医療事情でも何らかの改善の余地はあった | 20 | 44.4% |
| その他 | 1 | 2.2% |
| 全体 | 45 | 100.0% |

③ 第IX因子複合体製剤

| | 回答数 | 割合 N=45 |
|----------------------------|-----|---------|
| 当時の医療事情では代替する治療法の選択は不可能だった | 19 | 42.2% |
| 当時の医療事情でも何らかの改善の余地はあった | 20 | 44.4% |
| その他 | 6 | 13.3% |
| 全体 | 45 | 100.0% |

問 5. 上記製剤及び血液製剤全般（輸血用血液製剤を除く）の使用による、非 A 非 B 肝炎罹患率について当時の認識をお答えください。

S5-1. 昭和 60 年以前の認識

① フィブリノゲン製剤

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|-------------|-----|----------|
| 罹患しない | 12 | 11.7% |
| 罹患するがごく稀である | 33 | 32.0% |
| 半数程度が罹患する | 7 | 6.8% |
| 7割以上が罹患する | 0 | 0.0% |
| ほぼ全員が罹患する | 1 | 1.0% |
| その他 | 0 | 0.0% |
| わからなかった | 43 | 41.7% |
| 覚えていない | 7 | 6.8% |
| 全 体 | 103 | 100.0% |

② フィブリン糊

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|-------------|-----|----------|
| 罹患しない | 22 | 21.4% |
| 罹患するがごく稀である | 24 | 23.3% |
| 半数程度が罹患する | 2 | 1.9% |
| 7割以上が罹患する | 0 | 0.0% |
| ほぼ全員が罹患する | 0 | 0.0% |
| その他 | 0 | 0.0% |
| わからなかった | 43 | 41.7% |
| 覚えていない | 12 | 11.7% |
| 全 体 | 103 | 100.0% |

③ 第IX因子複合体製剤

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|-------------|-----|----------|
| 罹患しない | 12 | 11.7% |
| 罹患するがごく稀である | 25 | 24.3% |
| 半数程度が罹患する | 4 | 3.9% |
| 7割以上が罹患する | 1 | 1.0% |
| ほぼ全員が罹患する | 0 | 0.0% |
| その他 | 0 | 0.0% |
| わからなかった | 46 | 44.7% |
| 覚えていない | 15 | 14.6% |
| 全 体 | 103 | 100.0% |

④ 血液製剤全般

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|--|-----|----------|
| 血液製剤である以上は全て非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | 29 | 28.2% |
| 血液製剤の一部は、非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | 44 | 42.7% |
| 血液製剤に非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあるとは認識していなかった | 29 | 28.2% |
| 全 体 | 103 | 100.0% |

S5-2. 昭和 60 年以降の認識

① フィブリノゲン製剤

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|-------------|-----|----------|
| 罹患しない | 8 | 7.8% |
| 罹患するがごく稀である | 41 | 39.8% |
| 半数程度が罹患する | 16 | 15.5% |
| 7割以上が罹患する | 1 | 1.0% |
| ほぼ全員が罹患する | 3 | 2.9% |
| その他 | 1 | 1.0% |
| わからなかった | 26 | 25.2% |
| 覚えていない | 7 | 6.8% |
| 全 体 | 103 | 100.0% |

② フィブリン糊

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|-------------|-----|----------|
| 罹患しない | 13 | 12.6% |
| 罹患するがごく稀である | 35 | 34.0% |
| 半数程度が罹患する | 10 | 9.7% |
| 7割以上が罹患する | 0 | 0.0% |
| ほぼ全員が罹患する | 1 | 1.0% |
| その他 | 2 | 1.9% |
| わからなかった | 33 | 32.0% |
| 覚えていない | 9 | 8.7% |
| 全 体 | 103 | 100.0% |

③ 第IX因子複合体製剤

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|-------------|-----|----------|
| 罹患しない | 9 | 8.7% |
| 罹患するがごく稀である | 36 | 35.0% |
| 半数程度が罹患する | 10 | 9.7% |
| 7割以上が罹患する | 0 | 0.0% |
| ほぼ全員が罹患する | 2 | 1.9% |
| その他 | 0 | 0.0% |
| わからなかった | 34 | 33.0% |
| 覚えていない | 12 | 11.7% |
| 全 体 | 103 | 100.0% |

④ 血液製剤全般

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|------------------------------------|-----|----------|
| 血液製剤である以上は全て非A非B肝炎罹患のリスクがあると認識していた | 38 | 36.9% |
| 血液製剤の一部は、非A非B肝炎罹患のリスクがあると認識していた | 42 | 40.8% |
| 血液製剤に非A非B肝炎罹患のリスクがあるとは認識していなかった | 22 | 21.4% |
| その他 | 1 | 1.0% |
| 全 体 | 103 | 100.0% |

問 6. 非 A 非 B 肝炎の予後に関する当時の認識をお答えください。

S6-1. 昭和 60 年以前の認識

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|-------------------------|-----|----------|
| 肝硬変、肝臓へと進展し死に至る重篤な疾患 | 19 | 18.4% |
| 肝硬変、肝臓へと進展する場合もあるが頻度は低い | 49 | 47.6% |
| 慢性化はするが、肝硬変、肝臓へは進展しない疾患 | 16 | 15.5% |
| 急性の疾患であり、慢性化することは稀である疾患 | 17 | 16.5% |
| その他 | 2 | 1.9% |
| 全 体 | 103 | 100.0% |

S6-2. 昭和 60 年以降の認識

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|-------------------------|-----|----------|
| 肝硬変、肝臓へと進展し死に至る重篤な疾患 | 55 | 53.4% |
| 肝硬変、肝臓へと進展する場合もあるが頻度は低い | 35 | 34.0% |
| 慢性化はするが、肝硬変、肝臓へは進展しない疾患 | 5 | 4.9% |
| 急性の疾患であり、慢性化することは稀である疾患 | 6 | 5.8% |
| その他 | 2 | 1.9% |
| 全 体 | 103 | 100.0% |

問 7. 各年代で臨床現場において治療行為を行っていた方にお聞きします (問 1 で自動的にチェック)。

昭和 40~60 年代当時に見た学会、論文などの症例集積に、上記血液製剤の使用症例が含まれていましたか。ご記憶の範囲でお答えください。

S7-1. 昭和 60 年以前の認識

| | 回答数 | 割合 N=73 |
|-------------------|-----|---------|
| 含まれており参考にしていた | 13 | 17.8% |
| 含まれていたが参考にしていなかった | 6 | 8.2% |
| 含まれてはいなかった | 5 | 6.8% |
| 分からない、知らない | 48 | 65.8% |
| その他 | 1 | 1.4% |
| 全 体 | 73 | 100.0% |

S7-2. 昭和 60 年以降の認識)

| | 回答数 | 割合 N=95 |
|-------------------|-----|---------|
| 含まれており参考にしていた | 26 | 27.4% |
| 含まれていたが参考にしていなかった | 18 | 18.9% |
| 含まれてはいなかった | 7 | 7.4% |
| 分からない、知らない | 44 | 46.3% |
| その他 | 0 | 0.0% |
| 全 体 | 95 | 100.0% |

問 8. 各年代で臨床現場において治療行為を行っていた方にお聞きします (問 1 で自動的にチェック)。

昭和 40～50 年代当時、治療方針を決定する際何を参考にしていましたか。

参考にしてきたもの全てを回答してください。

| | 回答数 | 割合 N=73 |
|-----------------------------|-----|---------|
| 教科書の記述 | 37 | 50.7% |
| 診療ガイドライン | 22 | 30.1% |
| 治療のマニュアル本 | 13 | 17.8% |
| 学術論文等の記述 | 36 | 49.3% |
| 学会発表 | 27 | 37.0% |
| 先輩、同僚等身近な経験豊富な医師の指導、助言 | 59 | 80.8% |
| 専門分野において著名な医師の意見 | 25 | 34.2% |
| MR (当時の製薬メーカーのプロパー) からの情報提供 | 27 | 37.0% |
| その他 | 1 | 1.4% |
| 全 体 | 73 | 100.0% |

問 9. 各年代で臨床現場において治療行為を行っていた方にお聞きします (問 1 で自動的にチェック)。

昭和 40～50 年代当時、血液製剤の適用等に関し製薬企業からの情報提供はありましたか。

| | 回答数 | 割合 N=73 |
|-----------|-----|---------|
| 情報提供はなかった | 53 | 72.6% |
| 情報提供はあった | 20 | 27.4% |
| 全 体 | 73 | 100.0% |

S9. 上記設問で「2. 情報提供はあった」と回答した方にお伺いします。

どのような形で情報提供がありましたか？

| | 回答数 | 割合 N=73 |
|-------------------------|-----|---------|
| 口頭での情報提供があった | 15 | 20.5% |
| 学術論文を持参しての情報提供があった | 5 | 6.8% |
| 企業が作成した資料を持参しての情報提供があった | 12 | 16.4% |
| その他 | 0 | 0.0% |
| 全 体 | 73 | 100.0% |

問 10. 「輸血用血液製剤は日本赤十字社がすぐには持ってきてくれないため、常備されている血液分画製剤を利用する」という意見について、以下の中から先生のお考えに近いものを 1 つお答えください。

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|---|-----|----------|
| 当時そのような考えを持っていた | 17 | 16.5% |
| そのような考えは持ってはいなかったが、周囲の医師がこのような発言をしていたのを聞いたことがある | 21 | 20.4% |
| そのような考えは持ってはいなかったし、周囲でも聞いたことがない | 35 | 34.0% |
| わからない | 29 | 28.2% |
| その他 | 1 | 1.0% |
| 全 体 | 103 | 100.0% |

問 11. 東京地方裁判所昭和 50(1975)年 2 月 13 日判決「弛緩出血ショック止血措置輸血措置懈怠」について伺います。

S11-1. 上記裁判判決を知っていますか

| | 回答数 | 割合 N=103 |
|-----------------------|-----|----------|
| 内容を知っている | 5 | 4.9% |
| 聞いたことはあるが内容までは詳しく知らない | 43 | 41.7% |
| 全く知らない | 55 | 53.4% |
| 全 体 | 103 | 100.0% |

【上記 S11-1 で、1, 2 と回答した方のみお答えください】

S11-1-1. 上記裁判判決は、自らの治療方針に影響しましたか

| | 回答数 | 割合 N=48 |
|----------|-----|---------|
| 大きく影響した | 2 | 4.2% |
| 多少は影響した | 25 | 52.1% |
| 影響はしなかった | 9 | 18.8% |
| 分からない | 12 | 25.0% |
| その他 | 0 | 0.0% |
| 全 体 | 48 | 100.0% |

ii) クロス集計

年齢別 フィブリノゲン製剤の使用経験

【F1. 年齢×問 2-1. フィブリノゲン製剤の使用経験】

| 年代 | 使用経験 10 例以上 | | 使用経験 1～9 例 | | 使用経験はない | |
|----------------|-------------|-------|------------|-------|---------|-------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 50 代前半 (N=64) | 15 | 23.4% | 12 | 18.8% | 37 | 57.8% |
| 50 代後半 (N=22) | 7 | 31.8% | 8 | 36.4% | 7 | 31.8% |
| 60～70 代 (N=17) | 4 | 23.5% | 5 | 29.4% | 8 | 47.1% |

専門分野別 フィブリノゲン製剤の使用経験

【F3. 専門分野×問 2-1. フィブリノゲン製剤の使用経験】

| 専門分野 | 使用経験 10 例以上 | | 使用経験 1～9 例 | | 使用経験はない | |
|---------------|-------------|-------|------------|-------|---------|-------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 産科 (N=20) | 6 | 30.0% | 5 | 25.0% | 9 | 45.0% |
| 胸部外科 (N=10) | 3 | 30.0% | 0 | 0.0% | 7 | 70.0% |
| 消化器外科 (N=23) | 6 | 26.1% | 5 | 21.7% | 12 | 52.2% |
| 小児科 (N=20) | 4 | 20.0% | 3 | 15.0% | 13 | 65.0% |
| 血液内科 (N=23) | 4 | 17.4% | 11 | 47.8% | 8 | 34.8% |
| その他・内科系 (N=4) | 2 | 50.0% | 1 | 25.0% | 1 | 25.0% |
| その他・外科系 (N=3) | 1 | 33.3% | 0 | 0.0% | 2 | 66.7% |

年齢別 フィブリン糊の使用経験

【F1. 年齢×問 2-2. フィブリン糊の使用経験】

| 年代 | 使用経験 10 例以上 | | 使用経験 1～9 例 | | 使用経験はない | |
|----------------|-------------|-------|------------|-------|---------|-------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 50 代前半 (N=64) | 25 | 39.1% | 7 | 10.9% | 32 | 50.0% |
| 50 代後半 (N=22) | 6 | 27.3% | 3 | 13.6% | 13 | 59.1% |
| 60～70 代 (N=17) | 5 | 29.4% | 0 | 0.0% | 12 | 70.6% |

専門分野別 フィブリン糊の使用経験

【F3. 専門分野×問 2-2. フィブリン糊の使用経験】

| 専門分野 | 使用経験 10 例以上 | | 使用経験 1～9 例 | | 使用経験はない | |
|---------------|-------------|--------|------------|-------|---------|--------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 産科 (N=20) | 6 | 30.0% | 4 | 20.0% | 10 | 50.0% |
| 胸部外科 (N=10) | 10 | 100.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 消化器外科 (N=23) | 17 | 73.9% | 4 | 17.4% | 2 | 8.7% |
| 小児科 (N=20) | 0 | 0.0% | 1 | 5.0% | 19 | 95.0% |
| 血液内科 (N=23) | 0 | 0.0% | 1 | 4.3% | 22 | 95.7% |
| その他・内科系 (N=4) | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 4 | 100.0% |
| その他・外科系 (N=3) | 3 | 100.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

年齢別 第IX因子複合体製剤の使用経験

【F1. 年齢×問 2-3. 第IX因子複合体製剤の使用経験】

| 年代 | 使用経験 10 例以上 | | 使用経験 1～9 例 | | 使用経験はない | |
|----------------|-------------|------|------------|-------|---------|-------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 50 代前半 (N=64) | 3 | 4.7% | 24 | 37.5% | 37 | 57.8% |
| 50 代後半 (N=22) | 2 | 9.1% | 9 | 40.9% | 11 | 50.0% |
| 60～70 代 (N=17) | 0 | 0.0% | 7 | 41.2% | 10 | 58.8% |

専門分野別 IX因子複合体製剤の使用経験

【F3. 専門分野×問2-3. 第IX因子複合体製剤の使用経験】

| 専門分野 | 使用経験 10 例以上 | | 使用経験 1~9 例 | | 使用経験はない | |
|---------------|-------------|-------|------------|-------|---------|--------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 産科 (N=20) | 0 | 0.0% | 6 | 30.0% | 14 | 70.0% |
| 胸部外科 (N=10) | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 10 | 100.0% |
| 消化器外科 (N=23) | 2 | 8.7% | 5 | 21.7% | 16 | 69.6% |
| 小児科 (N=20) | 1 | 5.0% | 13 | 65.0% | 6 | 30.0% |
| 血液内科 (N=23) | 1 | 4.3% | 16 | 69.6% | 6 | 26.1% |
| その他・内科系 (N=4) | 1 | 25.0% | 0 | 0.0% | 3 | 75.0% |
| その他・外科系 (N=3) | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 3 | 100.0% |

専門分野別 フィブリノゲン製剤の治療効果

【F3. 専門分野×S3-2. フィブリノゲン製剤の治療効果】

| 専門分野 | 治療効果は高かった | | 治療効果は低かった | | 治療効果の評価は困難である | | 覚えていない | |
|---------------|-----------|--------|-----------|--------|---------------|-------|--------|-------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 産科 (N=11) | 5 | 45.5% | 0 | 0.0% | 6 | 54.5% | 0 | 0.0% |
| 胸部外科 (N=3) | 3 | 100.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 消化器外科 (N=11) | 4 | 36.4% | 1 | 9.1% | 5 | 45.5% | 1 | 9.1% |
| 小児科 (N=7) | 1 | 14.3% | 1 | 14.3% | 3 | 42.9% | 2 | 28.6% |
| 血液内科 (N=15) | 5 | 33.3% | 2 | 13.3% | 5 | 33.3% | 3 | 20.0% |
| その他・内科系 (N=3) | 1 | 33.3% | 0 | 0.0% | 1 | 33.3% | 1 | 33.3% |
| その他・外科系 (N=1) | 0 | 0.0% | 1 | 100.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

専門分野別 フィブリノゲン製剤の予防的な使用

【F3. 専門分野×S3-3. フィブリノゲン製剤の予防的な使用】

| 専門分野 | ある | | ない | | 記憶にない | |
|---------------|-----|-------|-----|--------|-------|-------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 産科 (N=11) | 1 | 9.1% | 10 | 90.9% | 0 | 0.0% |
| 胸部外科 (N=3) | 0 | 0.0% | 2 | 66.7% | 1 | 33.3% |
| 消化器外科 (N=11) | 3 | 27.3% | 5 | 45.5% | 3 | 27.3% |
| 小児科 (N=7) | 1 | 14.3% | 5 | 71.4% | 1 | 14.3% |
| 血液内科 (N=15) | 0 | 0.0% | 14 | 93.3% | 1 | 6.7% |
| その他・内科系 (N=3) | 1 | 33.3% | 2 | 66.7% | 0 | 0.0% |
| その他・外科系 (N=1) | 0 | 0.0% | 1 | 100.0% | 0 | 0.0% |

専門分野別 フィブリノゲン製剤の代替治療について (昭和 60 年以前の認識)

【F3. 専門分野×S4-1. フィブリノゲン製剤代替治療について】

| 専門分野 | 当時の医療事情では代替する治療法の選択は不可能だった | | 当時の医療事情でも何らかの改善の余地はあった | | その他 | |
|---------------|----------------------------|--------|------------------------|--------|-----|--------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 産科 (N=8) | 5 | 62.5% | 3 | 37.5% | 0 | 0.0% |
| 胸部外科 (N=2) | 2 | 100.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 消化器外科 (N=9) | 7 | 77.8% | 2 | 22.2% | 0 | 0.0% |
| 小児科 (N=14) | 3 | 75.0% | 1 | 25.0% | 0 | 0.0% |
| 血液内科 (N=12) | 10 | 83.3% | 2 | 16.7% | 0 | 0.0% |
| その他・内科系 (N=1) | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 100.0% |
| その他・外科系 (N=1) | 0 | 0.0% | 1 | 100.0% | 0 | 0.0% |

専門分野別 フィブリノゲン製剤の代替治療について（昭和 60 年以降の認識）

【F3. 専門分野×S4-2. フィブリノゲン製剤の代替治療について】

| 専門分野 | 当時の医療事情では代替する治療法の選択は不可能だった | | 当時の医療事情でも何らかの改善の余地はあった | | その他 | |
|---------------|----------------------------|-------|------------------------|-------|-----|--------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 産科 (N=11) | 2 | 18.2% | 8 | 72.7% | 1 | 9.1% |
| 胸部外科 (N=3) | 2 | 66.7% | 1 | 33.3% | 0 | 0.0% |
| 消化器外科 (N=11) | 6 | 54.5% | 5 | 45.5% | 0 | 0.0% |
| 小児科 (N=7) | 3 | 42.9% | 4 | 57.1% | 0 | 0.0% |
| 血液内科 (N=14) | 5 | 35.7% | 9 | 64.3% | 0 | 0.0% |
| その他・内科系 (N=3) | 1 | 33.3% | 1 | 33.3% | 1 | 33.3% |
| その他・外科系 (N=1) | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 100.0% |

フィブリノゲン製剤の治療効果の認識別 フィブリノゲン製剤の代替治療法について（昭和 60 年以前の認識） 【S3-2. フィブリノゲン製剤の治療効果×S4-1. フィブリノゲン製剤の代替治療法について】

| 治療効果 | 当時の医療事情では代替する治療法の選択は不可能だった | | 当時の医療事情でも何らかの改善の余地はあった | | その他 | |
|--------------------------------|----------------------------|-------|------------------------|-------|-----|-------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 治療効果は高かった(N=13) | 11 | 84.6% | 2 | 15.4% | 0 | 0.0% |
| 治療効果はあったがより治療効果の高い製剤が存在した(N=0) | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 治療効果は低かった(N=4) | 1 | 25.0% | 3 | 75.0% | 0 | 0.0% |
| 治療効果の評価は困難である(N=13) | 10 | 76.9% | 3 | 23.1% | 0 | 0.0% |
| 覚えていない(N=7) | 5 | 71.4% | 1 | 14.3% | 1 | 14.3% |

フィブリノゲン製剤の治療効果の認識別 フィブリノゲン製剤の代替治療法について（昭和 60 年以降の認識） 【S3-2. フィブリノゲン製剤の治療効果×S4-2. フィブリノゲン製剤の代替治療法について】

| 治療効果 | 当時の医療事情では代替する治療法の選択は不可能だった | | 当時の医療事情でも何らかの改善の余地はあった | | その他 | |
|--------------------------------|----------------------------|-------|------------------------|-------|-----|-------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 治療効果は高かった (N=19) | 9 | 47.4% | 9 | 47.4% | 1 | 5.3% |
| 治療効果はあったがより治療効果の高い製剤が存在した(N=0) | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 治療効果は低かった (N=5) | 1 | 20.0% | 3 | 60.0% | 1 | 20.0% |
| 治療効果の評価は困難である (N=19) | 8 | 42.1% | 11 | 57.9% | 0 | 0.0% |
| 覚えていない (N=7) | 1 | 14.3% | 5 | 71.4% | 1 | 14.3% |

専門分野別 昭和 60 年以前のフィブリノゲン製剤の肝炎罹患に関する認識

【F3. 専門分野×S5-1. 昭和 60 年以前のフィブリノゲン製剤の肝炎罹患に関する認識】

| 専門分野 | 罹患しない | | 罹患するがごく稀である | | 半数程度が罹患する | | 7割以上が罹患する | | ほぼ全員が罹患する | | その他 | | わからなかった | | 覚えていない | |
|---------------|-------|-------|-------------|-------|-----------|-------|-----------|------|-----------|------|-----|------|---------|-------|--------|-------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 産科 (N=20) | 1 | 5.0% | 8 | 40.0% | 2 | 10.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 8 | 40.0% | 1 | 5.0% |
| 胸部外科 (N=10) | 3 | 30.0% | 2 | 20.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 5 | 50.0% | 0 | 0.0% |
| 消化器外科 (N=23) | 3 | 13.0% | 7 | 30.4% | 1 | 4.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 9 | 39.1% | 3 | 13.0% |
| 小児科 (N=20) | 2 | 10.0% | 5 | 25.0% | 2 | 10.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 10 | 50.0% | 1 | 5.0% |
| 血液内科 (N=23) | 2 | 8.7% | 10 | 43.5% | 2 | 8.7% | 0 | 0.0% | 1 | 4.3% | 0 | 0.0% | 8 | 34.8% | 0 | 0.0% |
| その他・内科系 (N=4) | 1 | 25.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 25.0% | 2 | 50.0% |
| その他・外科系 (N=3) | 0 | 0.0% | 1 | 33.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 2 | 66.7% | 0 | 0.0% |

専門分野別 昭和 60 年以降のフィブリノゲン製剤の肝炎罹患に関する認識

【F3. 専門分野×S5-2. 昭和 60 年以降のフィブリノゲン製剤の肝炎罹患に関する認識】

| 専門分野 | 罹患しない | | 罹患するがごく稀である | | 半数程度が罹患する | | 7割以上が罹患する | | ほぼ全員が罹患する | | その他 | | わからなかった | | 覚えていない | |
|---------------|-------|-------|-------------|-------|-----------|-------|-----------|------|-----------|------|-----|------|---------|-------|--------|-------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 産科 (N=20) | 1 | 5.0% | 11 | 55.0% | 4 | 20.0% | 1 | 5.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 3 | 15.0% | 0 | 0.0% |
| 胸部外科 (N=10) | 2 | 20.0% | 4 | 40.0% | 2 | 20.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 2 | 20.0% | 0 | 0.0% |
| 消化器外科 (N=23) | 3 | 13.0% | 7 | 30.4% | 2 | 8.7% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 4.3% | 8 | 34.8% | 2 | 8.7% |
| 小児科 (N=20) | 0 | 0.0% | 7 | 35.0% | 4 | 20.0% | 0 | 0.0% | 1 | 5.0% | 0 | 0.0% | 5 | 25.0% | 3 | 15.0% |
| 血液内科 (N=23) | 1 | 4.3% | 11 | 47.8% | 3 | 13.0% | 0 | 0.0% | 2 | 8.7% | 0 | 0.0% | 5 | 21.7% | 1 | 4.3% |
| その他・内科系 (N=4) | 1 | 25.0% | 1 | 25.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 25.0% | 1 | 25.0% |
| その他・外科系 (N=3) | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 33.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 2 | 66.7% | 0 | 0.0% |

専門分野別 昭和 60 年以前のフィブリン糊の肝炎罹患に関する認識

【F3. 専門分野×S5-1. 昭和 60 年以前のフィブリン糊の肝炎罹患に関する認識】

| 専門分野 | 罹患しない | | 罹患するがごく稀である | | 半数程度が罹患する | | 7割以上が罹患する | | ほぼ全員が罹患する | | その他 | | わからなかった | | 覚えていない | |
|---------------|-------|-------|-------------|-------|-----------|------|-----------|------|-----------|------|-----|------|---------|-------|--------|-------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 産科 (N=20) | 7 | 35.0% | 4 | 20.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 7 | 35.0% | 2 | 10.0% |
| 胸部外科 (N=10) | 3 | 30.0% | 4 | 40.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 3 | 30.0% | 0 | 0.0% |
| 消化器外科 (N=23) | 6 | 26.1% | 5 | 21.7% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 8 | 34.8% | 4 | 17.4% |
| 小児科 (N=20) | 2 | 10.0% | 4 | 20.0% | 1 | 5.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 11 | 55.0% | 2 | 10.0% |
| 血液内科 (N=23) | 2 | 8.7% | 7 | 30.4% | 1 | 4.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 11 | 47.8% | 2 | 8.7% |
| その他・内科系 (N=4) | 1 | 25.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 25.0% | 2 | 50.0% |
| その他・外科系 (N=3) | 1 | 33.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 2 | 66.7% | 0 | 0.0% |

専門分野別 昭和 60 年以降のフィブリン糊の肝炎罹患に関する認識

【F3. 専門分野 × S5-2. 昭和 60 年以降のフィブリン糊の肝炎罹患に関する認識】

| 専門分野 | 罹患しない | | 罹患するがごく稀である | | 半数程度が罹患する | | 7割以上が罹患する | | ほぼ全員が罹患する | | その他 | | わからなかった | | 覚えていない | |
|---------------|-------|-------|-------------|-------|-----------|-------|-----------|------|-----------|------|-----|------|---------|-------|--------|-------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 産科 (N=20) | 3 | 15.0% | 10 | 50.0% | 2 | 10.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 5 | 25.0% | 0 | 0.0% |
| 胸部外科 (N=10) | 3 | 30.0% | 4 | 40.0% | 1 | 10.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 2 | 20.0% | 0 | 0.0% |
| 消化器外科 (N=23) | 5 | 21.7% | 7 | 30.4% | 1 | 4.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 4.3% | 7 | 30.4% | 2 | 8.7% |
| 小児科 (N=20) | 0 | 0.0% | 5 | 25.0% | 4 | 20.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 5.0% | 7 | 35.0% | 3 | 15.0% |
| 血液内科 (N=23) | 1 | 4.3% | 7 | 30.4% | 2 | 8.7% | 0 | 0.0% | 1 | 4.3% | 0 | 0.0% | 9 | 39.1% | 3 | 13.0% |
| その他・内科系 (N=4) | 1 | 25.0% | 1 | 25.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 25.0% | 1 | 25.0% |
| その他・外科系 (N=3) | 0 | 0.0% | 1 | 33.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 2 | 66.7% | 0 | 0.0% |

専門分野別 昭和 60 年以前の第Ⅸ因子複合体製剤の肝炎罹患に関する認識

【F3. 専門分野 × S5-1. 昭和 60 年以前の第Ⅸ因子複合体製剤の肝炎罹患に関する認識】

| 専門分野 | 罹患しない | | 罹患するがごく稀である | | 半数程度が罹患する | | 7割以上が罹患する | | ほぼ全員が罹患する | | その他 | | わからなかった | | 覚えていない | |
|---------------|-------|-------|-------------|-------|-----------|-------|-----------|------|-----------|------|-----|------|---------|-------|--------|-------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 産科 (N=20) | 3 | 15.0% | 5 | 25.0% | 2 | 10.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 9 | 45.0% | 1 | 5.0% |
| 胸部外科 (N=10) | 2 | 20.0% | 1 | 10.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 6 | 60.0% | 1 | 10.0% |
| 消化器外科 (N=23) | 1 | 4.3% | 5 | 21.7% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 11 | 47.8% | 6 | 26.1% |
| 小児科 (N=20) | 2 | 10.0% | 6 | 30.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 11 | 55.0% | 1 | 5.0% |
| 血液内科 (N=23) | 3 | 13.0% | 7 | 30.4% | 2 | 8.7% | 1 | 4.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 7 | 30.4% | 3 | 13.0% |
| その他・内科系 (N=4) | 1 | 25.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 25.0% | 2 | 50.0% |
| その他・外科系 (N=3) | 0 | 0.0% | 1 | 33.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 33.3% | 1 | 33.3% |

専門分野別 昭和 60 年以降の第Ⅸ因子複合体製剤の肝炎罹患に関する認識

【F3. 専門分野 × S5-2. 昭和 60 年以降の第Ⅸ因子複合体製剤の肝炎罹患に関する認識】

| 専門分野 | 罹患しない | | 罹患するがごく稀である | | 半数程度が罹患する | | 7割以上が罹患する | | ほぼ全員が罹患する | | その他 | | わからなかった | | 覚えていない | |
|---------------|-------|-------|-------------|-------|-----------|-------|-----------|------|-----------|------|-----|------|---------|-------|--------|-------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 産科 (N=20) | 2 | 10.0% | 9 | 45.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 8 | 40.0% | 1 | 5.0% |
| 胸部外科 (N=10) | 2 | 20.0% | 2 | 20.0% | 1 | 10.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 5 | 50.0% | 0 | 0.0% |
| 消化器外科 (N=23) | 2 | 8.7% | 8 | 34.8% | 3 | 13.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 7 | 30.4% | 3 | 13.0% |
| 小児科 (N=20) | 0 | 0.0% | 7 | 35.0% | 2 | 10.0% | 0 | 0.0% | 1 | 5.0% | 0 | 0.0% | 7 | 35.0% | 3 | 15.0% |
| 血液内科 (N=23) | 2 | 8.7% | 9 | 39.1% | 3 | 13.0% | 0 | 0.0% | 1 | 4.3% | 0 | 0.0% | 6 | 26.1% | 2 | 8.7% |
| その他・内科系 (N=4) | 1 | 25.0% | 1 | 25.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 25.0% | 1 | 25.0% |
| その他・外科系 (N=3) | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 33.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 2 | 66.7% |

フィブリノゲン製剤の使用経験例数別 昭和 60 年以前の血液製剤全般による肝炎罹患に関する認識

【問 2-1.フィブリノゲン製剤の使用経験 × S5-1-4. 昭和 60 年以前の血液製剤全般による肝炎罹患に関する認識】

| 専門分野 | 血液製剤である以上は全て非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | | 血液製剤の一部は、非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | | 血液製剤に非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあるとは認識していなかった | | その他 | |
|--------------------|--|-------|-------------------------------------|-------|-------------------------------------|-------|-----|------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 使用経験 10 例以上 (N=26) | 8 | 30.8% | 12 | 46.2% | 6 | 23.1% | 0 | 0.0% |
| 使用経験 1~9 例 (N=25) | 6 | 24.0% | 9 | 36.0% | 10 | 40.0% | 0 | 0.0% |
| 使用経験はない (N=52) | 15 | 28.8% | 23 | 44.2% | 13 | 25.0% | 1 | 1.9% |

フィブリノゲン製剤の使用経験例数別 昭和 60 年以降の血液製剤全般による肝炎罹患に関する認識

【問 2-1.フィブリノゲン製剤の使用経験 × S5-2-4. 昭和 60 年以降の血液製剤全般による肝炎罹患に関する認識】

| 専門分野 | 血液製剤である以上は全て非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | | 血液製剤の一部は、非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | | 血液製剤に非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあるとは認識していなかった | | その他 | |
|--------------------|--|-------|-------------------------------------|-------|-------------------------------------|-------|-----|------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 使用経験 10 例以上 (N=26) | 10 | 38.5% | 11 | 42.3% | 5 | 19.2% | 0 | 0.0% |
| 使用経験 1~9 例 (N=25) | 8 | 32.0% | 11 | 44.0% | 6 | 24.0% | 0 | 0.0% |
| 使用経験はない (N=52) | 20 | 38.5% | 20 | 38.5% | 11 | 21.2% | 1 | 1.9% |

フィブリノゲン製剤の予防的な使用の有無別 昭和 60 年以前の血液製剤全般の肝炎罹患に関する認識

【S3-3. フィブリノゲン製剤の予防的な使用 × S5-1-4. 昭和 60 年以前の血液製剤全般の肝炎罹患に関する認識】

| 専門分野 | 血液製剤である以上は全て非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | | 血液製剤の一部は、非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | | 血液製剤に非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあるとは認識していなかった | | その他 | |
|-------------|--|-------|-------------------------------------|-------|-------------------------------------|-------|-----|------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| ある (N=6) | 3 | 50.0% | 2 | 33.3% | 1 | 16.7% | 0 | 0.0% |
| ない (N=39) | 10 | 25.6% | 19 | 48.7% | 10 | 25.6% | 0 | 0.0% |
| 記憶にない (N=6) | 1 | 16.7% | 0 | 0.0% | 5 | 83.3% | 0 | 0.0% |

フィブリノゲン製剤の予防的な使用の有無別 昭和 60 年以降の血液製剤全般の肝炎罹患に関する認識

【S3-3.フィブリノゲン製剤の予防的な使用 × S5-2-4. 昭和 60 年以降の血液製剤全般の肝炎罹患に関する認識】

| 専門分野 | 血液製剤である以上は全て非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | | 血液製剤の一部は、非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | | 血液製剤に非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあるとは認識していなかった | | その他 | |
|-------------|--|-------|-------------------------------------|-------|-------------------------------------|-------|-----|------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| ある (N=6) | 1 | 16.7% | 4 | 66.7% | 1 | 16.7% | 0 | 0.0% |
| ない (N=39) | 15 | 38.5% | 18 | 46.2% | 6 | 15.4% | 0 | 0.0% |
| 記憶にない (N=6) | 2 | 33.3% | 0 | 0.0% | 4 | 66.7% | 0 | 0.0% |

フィブリノゲン製剤の代替治療法についての認識（昭和 60 年以前の認識）別 昭和 60 年以前の血液製剤全般の肝炎罹患に関する認識

【S4-1. フィブリノゲン製剤の代替治療法について(昭和60年以前の認識) × S5-1-4. 昭和60年以前の血液製剤全般の肝炎罹患に関する認識】

| 専門分野 | 血液製剤である以上は全て非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | | 血液製剤の一部は、非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | | 血液製剤に非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあるとは認識していなかった | | その他 | |
|-----------------------------------|--|--------|-------------------------------------|-------|-------------------------------------|-------|-----|------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 当時の医療事情では代替する治療法の選択は不可能だった (N=27) | 4 | 14.8% | 14 | 51.9% | 9 | 33.3% | 0 | 0.0% |
| 当時の医療事情でも何らかの改善の余地はあった (N=9) | 3 | 33.3% | 3 | 33.3% | 3 | 33.3% | 0 | 0.0% |
| その他 (N=1) | 1 | 100.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

フィブリノゲン製剤の代替治療法についての認識（昭和 60 年以降の認識）別 昭和 60 年以降の血液製剤全般の肝炎罹患に関する認識

【S4-2. フィブリノゲン製剤の代替治療法について(昭和60年以降の認識) × S5-2-4. 昭和60年以降の血液製剤全般の肝炎罹患に関する認識】

| 専門分野 | 血液製剤である以上は全て非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | | 血液製剤の一部は、非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | | 血液製剤に非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあるとは認識していなかった | | その他 | |
|-----------------------------------|--|-------|-------------------------------------|-------|-------------------------------------|-------|-----|------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 当時の医療事情では代替する治療法の選択は不可能だった (N=19) | 3 | 15.8% | 10 | 52.6% | 6 | 31.6% | 0 | 0.0% |
| 当時の医療事情でも何らかの改善の余地はあった (N=28) | 13 | 46.4% | 11 | 39.3% | 4 | 14.3% | 0 | 0.0% |
| その他 (N=3) | 1 | 33.3% | 1 | 33.3% | 1 | 33.3% | 0 | 0.0% |

専門分野別 昭和 60 年以前の血液製剤全般の肝炎罹患に関する認識

【F3. 専門分野 × S5-1-4. 昭和 60 年以前の血液製剤全般の肝炎罹患に関する認識】

| 専門分野 | 血液製剤である以上は全て非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | | 血液製剤の一部は、非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | | 血液製剤に非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあるとは認識していなかった | | その他 | |
|---------------|--|-------|-------------------------------------|-------|-------------------------------------|-------|-----|------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 産科 (N=20) | 5 | 25.0% | 11 | 55.0% | 4 | 20.0% | 0 | 0.0% |
| 胸部外科 (N=10) | 2 | 20.0% | 5 | 50.0% | 3 | 30.0% | 0 | 0.0% |
| 消化器外科 (N=23) | 4 | 17.4% | 11 | 47.8% | 8 | 34.8% | 0 | 0.0% |
| 小児科 (N=20) | 5 | 25.0% | 7 | 35.0% | 7 | 35.0% | 1 | 5.0% |
| 血液内科 (N=23) | 10 | 43.5% | 8 | 34.8% | 5 | 21.7% | 0 | 0.0% |
| その他・内科系 (N=4) | 3 | 75.0% | 0 | 0.0% | 1 | 25.0% | 0 | 0.0% |
| その他・外科系 (N=3) | 0 | 0.0% | 2 | 66.7% | 1 | 33.3% | 0 | 0.0% |

専門分野別 昭和 60 年以降の血液製剤全般の肝炎罹患に関する認識

【F3. 専門分野×S5-2-4. 昭和 60 年以降の血液製剤全般の肝炎罹患に関する認識】

| 専門分野 | 血液製剤である以上は全て非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | | 血液製剤の一部は、非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあると認識していた | | 血液製剤に非 A 非 B 肝炎罹患のリスクがあるとは認識していなかった | | その他 | |
|---------------|--|-------|-------------------------------------|-------|-------------------------------------|-------|-----|------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 産科 (N=20) | 6 | 30.0% | 10 | 50.0% | 4 | 20.0% | 0 | 0.0% |
| 胸部外科 (N=10) | 4 | 40.0% | 4 | 40.0% | 2 | 20.0% | 0 | 0.0% |
| 消化器外科 (N=23) | 7 | 30.4% | 9 | 39.1% | 7 | 30.4% | 0 | 0.0% |
| 小児科 (N=20) | 7 | 35.0% | 8 | 40.0% | 4 | 20.0% | 1 | 5.0% |
| 血液内科 (N=23) | 10 | 43.5% | 10 | 43.5% | 3 | 13.0% | 0 | 0.0% |
| その他・内科系 (N=4) | 3 | 75.0% | 0 | 0.0% | 1 | 25.0% | 0 | 0.0% |
| その他・外科系 (N=3) | 1 | 33.3% | 1 | 33.3% | 1 | 33.3% | 0 | 0.0% |

フィブリノゲン製剤の使用経験例数別 昭和 60 年以前の非 A 非 B 型肝炎の重篤性に関する認識

【問 2-1. フィブリノゲン製剤の使用経験×S6-1. 昭和 60 年以前の非 A 非 B 型肝炎の重篤性に関する認識】

| 専門分野 | 肝硬変、肝癌へと進展し死に至る重篤な疾患 | | 肝硬変、肝癌へと進展する場合もあるが頻度は低い | | 慢性化はするが、肝硬変、肝癌へは進展しない疾患 | | 急性の疾患であり、慢性化することは稀である疾患 | | その他 | |
|--------------------|----------------------|-------|-------------------------|-------|-------------------------|-------|-------------------------|-------|-----|------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 使用経験 10 例以上 (N=26) | 5 | 19.2% | 13 | 50.0% | 4 | 15.4% | 4 | 15.4% | 0 | 0.0% |
| 使用経験 1~9 例 (N=25) | 5 | 20.0% | 10 | 40.0% | 4 | 16.0% | 6 | 24.0% | 0 | 0.0% |
| 使用経験はない (N=52) | 9 | 17.3% | 26 | 50.0% | 8 | 15.4% | 7 | 13.5% | 2 | 3.8% |

フィブリノゲン製剤の使用経験例数別 昭和 60 年以降の非 A 非 B 型肝炎の重篤性に関する認識

【問 2-1. フィブリノゲン製剤の使用経験×S6-2. 昭和 60 年以降の非 A 非 B 型肝炎の重篤性に関する認識】

| 専門分野 | 肝硬変、肝癌へと進展し死に至る重篤な疾患 | | 肝硬変、肝癌へと進展する場合もあるが頻度は低い | | 慢性化はするが、肝硬変、肝癌へは進展しない疾患 | | 急性の疾患であり、慢性化することは稀である疾患 | | その他 | |
|--------------------|----------------------|-------|-------------------------|-------|-------------------------|-------|-------------------------|------|-----|------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| 使用経験 10 例以上 (N=26) | 14 | 53.8% | 11 | 42.3% | 0 | 0.0% | 1 | 3.8% | 0 | 0.0% |
| 使用経験 1~9 例 (N=25) | 15 | 60.0% | 5 | 20.0% | 3 | 12.0% | 2 | 8.0% | 0 | 0.0% |
| 使用経験はない (N=52) | 26 | 50.0% | 19 | 36.5% | 2 | 3.8% | 3 | 5.8% | 2 | 3.8% |

フィブリノゲン製剤の予防的な使用の有無別 昭和 60 年以前の非 A 非 B 型肝炎の重篤性に関する認識

【S3-3. フィブリノゲン製剤の予防的な使用×S6-1. 昭和 60 年以前の非 A 非 B 型肝炎の重篤性に関する認識】

| 専門分野 | 肝硬変、肝癌へと進展し死に至る重篤な疾患 | | 肝硬変、肝癌へと進展する場合もあるが頻度は低い | | 慢性化はするが、肝硬変、肝癌へは進展しない疾患 | | 急性の疾患であり、慢性化することは稀である疾患 | | その他 | |
|-------------|----------------------|-------|-------------------------|-------|-------------------------|-------|-------------------------|-------|-----|------|
| | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 | 回答数 | 割合 |
| ある (N=6) | 1 | 16.7% | 3 | 50.0% | 1 | 16.7% | 1 | 16.7% | 0 | 0.0% |
| ない (N=39) | 9 | 23.1% | 17 | 43.6% | 6 | 15.4% | 7 | 17.9% | 0 | 0.0% |
| 記憶にない (N=6) | 0 | 0.0% | 3 | 50.0% | 1 | 16.7% | 2 | 33.3% | 0 | 0.0% |